

長生橋ライトアップの充実と周辺地域の魅力づくりによる地域活性化

長生橋を愛する会理事長 渡辺千雅

1. 活動の背景

長岡市を東西に大きく分断する信濃川に初代長生橋が架けられたのは 1876(明治 9)年であり初代萬代橋の架橋より 10 年早く信濃川に最初に架けられた木橋である。以来、幾多の洪水に遭いながらも長岡地域の東西交流を支えてきた。

現在の 3 代目長生橋は、1937(昭和 12)年 10 月の架橋で 13 径間下路式鋼ゲルバーワーレントラス橋であり、この形式では現存する国内最大の橋長(850.8m)、径間数を有する。橋脚上の山形トラスは定間隔で、その連続性は信濃川周辺の平坦な地形にアクセントを与え優美な景観を創出している。

長生橋は長岡の象徴として市民に親しまれ、特に長岡まつり花火大会での三尺玉とナイアガラ花火で照らし出される姿は夏の風物詩となっている。

2017 年、3 代目長生橋の架橋 80 周年を迎え、記念事業として、長生橋のこれまで果たしてきた役割や魅力を再認識し、橋の今後のあり方を考える事業とともにライトアップを実現させた。

この取り組みは 2018 年度から市民団体である「長生橋を愛する会」が引き継ぎライトアップの継続と長生橋の魅力発信を行ってきている。

川幅約 1 kmを有する信濃川の広大な高水敷は一部スポーツ公園として利用されているが、未活用の河川空間が多く、また水面の活用は長岡まつりの数日に限られている。市街地に広大な信濃川の河川空間があること、優美な長生橋が架けられていることが長岡地域の個性であり財産でもある。

長生橋ライトアップにより新たな景観創出が図られてきたことを機会に、さらにライトアップを充実させるとともに、長生橋の魅力を市民が共有し、長岡地域の個性的なまちづくりに信濃川と共に活用していくことが求められている。

2. 長生橋と長岡空襲



1941 年 12 月 8 日、日米開戦の火蓋が切られ、物資不足による強制供出で長生橋の高欄は木製に替わった。1945 年 8 月 1 日の長岡空襲では右岸の市街地から長生橋を渡り命が救われた市民が大勢いた。長生橋には当時の焼夷弾の直撃痕が残っている。戦災復興祈願の長岡花火との因縁を伺わせる橋でもある。

3. 活動内容

3-1 長生橋ライトアップの充実

長生橋ライトアップは色彩に社会的メッセージを持たせていることが最大の特徴である。

2023 年は以下の期間でライトアップを実施した。

- ・ 4 月 20 日 (金) 19:00 カウントダウン点灯式
- ・ 4/20～5/31 : ウクライナカラー
- ・ 6/1～7/7 : グリーン(環境の日)
- ・ 7/8～8/1 : ホワイト(慰霊・平和)
- ・ 8/2～8/31 : レインボー(明日への希望)
- ・ 9/1～9/30 : オレンジ(認知症啓発)
- ・ 10/1～10/31 : レインボー(明日への希望)

(新潟県建設業協会長岡支部協賛)

- ・ 11/1～11/30：ブルー(糖尿病啓発)
(新潟県糖尿病協会協賛)
- ・ 12/1～12/8：ホワイト(慰霊・平和)



ウクライナカラー(4月、5月)



グリーン(6月)



ホワイト(7月、12月)



レインボー(8月、10月)



オレンジ(9月)



ブルー(11月)



カウントダウン点灯式(アオーレ長岡・長生橋より中継)

3-2 総会記念講演会

長生橋と信濃川左右岸の広大な河川空間を活用した新たなまちづくりの取組みを行っていくために国土交通省の河川環境整備事業の「かわまちづくり支援制度」を学ぶ講演会を行った。

- ・ 日時：4月20日(木) 17:20～(アオーレ長岡)
- ・ 講演会：「河川空間の利活用や環境に関する国土交通省の取組について」
- ・ 講師：国土交通省北陸地方整備局河川部
建設専門官 渡辺 洋氏



講演会:国土交通省北陸地方整備局河川部 渡辺 洋氏

3-3 信濃川の水辺で乾杯(ミズベリング)

環境の日(6月5日)に予定していた長生橋歩道橋・河川敷の清掃、信濃川河川敷活用と長生橋を考える会を、(一社)地域ルネサンス創造機構シンクタンク・ザ・リバーバンクと共催で川の日(7月7日)に実施した。信濃川の管理者である信濃川河川事務所長、長岡市長、新潟県長岡地域振興局長など多くの参加者があり、今後の継続的な取組みとしての実施が確認され充実したものとなった。



信濃川の水辺で乾杯(2023.7. 7)
(リバーバンクレポート第 37 号表紙より)

3-4 第 3 回長生橋フォトコンテスト

竣工後 80 年を過ぎてなお現役で長岡の東西交流を支えている長生橋は、そのリズムカルで優美な姿から長年にわたり長岡のシンボルとして愛されてきている。ライトアップにより生まれ変わった長生橋の魅力、私たちが未だ知らない新たな魅力を市民の目線で再発見し、広く世界に発信するために長生橋フォトコンテストを実施した。

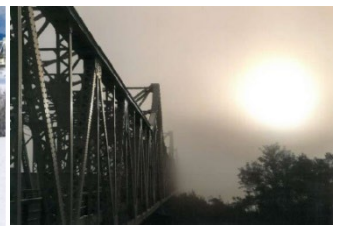
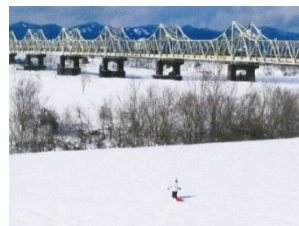
- ・応募期間：4月20日～11月20日
- ・主催：長生橋を愛する会
- ・後援：新潟県長岡地域振興局、国土交通省北陸地方整備局信濃川河川事務所、長岡市、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、NCT、FM ながおか 80.7、新潟日报社、長岡新聞社

12月12日審査会を開催し、最優秀賞1点、優秀賞3点、入選9点を選定した。

フォトコンテスト受賞者への表彰式は令和6年2月ム2023で行うとともに長生橋の魅力発信のツールとし



フォトコンテスト 卓上カレンダー



第 3 回長生橋フォトコンテスト
最優秀賞 1 点
優秀賞 3 点
ほか入選 9 点

て卓上カレンダーを作成し関係機関及び会員及びフォーラム参加者に配布するほか広報として活用していく。

3-5 かわまちづくり先進地視察

長生橋が架かる信濃川の広大な河川空間、及び水面活用は長岡の地域の活性化の鍵となると考えており、その活用方法等を検討していくために国土交通省北陸地方整備局河川部から紹介していただき、北陸地方整備局千曲川河川事務所より説明・案内いただき、千曲川における「かわまちづくり」事業について視察した。

- ・日時：令和5年10月23日～24日
- ・参加者：渡辺千雅理事長、鈴木聖二副理事長、村山達也事務局長、小川幸雄理事
- ・対応：北陸地方整備局千曲川河川事務所 寺田副所長、加藤工事品質管理官、石崎流域調整係長
- ・視察場所：千曲川依田地区かわまちづくり、千曲川北信5市町かわまちづくり



千曲川北信5市町 かわまちづくり

◆親水護岸等の整備(国)

- 整備完了
 - ・令和4年度春 飯山市
 - ・令和4年度末 長野市、須坂市
- 整備予定
 - ・令和5年度～ 中野市
 - ・令和6年度～ 小布施町

※国の整備に続き、自治体の整備を進める



依田川地区かわまちづくり現地視察



千曲川依田川地区かわまちづくり 及び 北信 5 市町かわまちづくりの活動(千曲川河川事務所資料より)



北信 5 市町かわまちづくり 飯山市階段護岸

■視察結果

- ・依田川地区は集落に近い河川空間の活用を行うもので基盤整備が行われている。管理棟を含め施設整備はこれからである。
- ・北信 5 市町かわまちづくりは、長野市、須坂市、中野市、小布施町、飯山市にわたる約 45 kmにわたる千曲川の活用がすでに行われている。

協議会に(株)モンベル、JR 東日本、長野電鉄が参加しており、すでに民間事業者とのタイアップができてきていること。5 市町の首長が毎回の協議会に参加しており、熱心な議論が交わされていることである。信濃川においては、過去にツツガムシの発生などが懸念され水面活用については行われていない。とても参考となる事例である。

3-6 長生橋構造見学会

長生橋を愛する会では長生橋周辺の小学生及び保護者を対象に新潟県長岡地域振興局及び(一社)新潟県建設業協会長岡支部と共催で構造見学会を開催している。令和5年度は9月23日に開催し、71名の参加者があった。



高所作業車による見学



歴史講座

信濃川講座

見学会の内容は「高所作業車による見学」「長生橋の歴史」「長生橋の構造」「信濃川」である。毎回定員に達する参加者があり好評であることから継続実施することとしている。

3-7 長生橋フォーラム 2023

長生橋フォーラムは、長生橋の魅力を市民と共有することを目的で毎年実施している。

■趣旨

長生橋ライトアップは長岡の新たな魅力ある景観として定着し、長岡地域におけるまちづくりの重要な存在として認識されるようになってきている。環境の日やウクライナ危機など社会情勢を反映し概ね月替わりで色を変えたライトアップは、その色彩の持つ意味とともに市民に理解されつつあり評価も高まってきたものと考えている。

2023年度は新たにミズベリングの「水辺で乾杯」などの活動参加とともに「かわまちづくり」として長生橋の架かる信濃川の活用などの検討も開始した。

長生橋は1937年の架橋から86年が経過し、満身

創痕の長生橋は管理者である新潟県において鋭意補修工事が継続されている。長生橋をまちづくりの視点、土木工学から見た魅力の視点、地域間競争における武器としての視点等から「長生橋」見つめなおし、長岡の新たなまちづくりに活用していく方策を議論し、また、今後の愛する会の活動についても考えていく場とする。

■プログラム

- ・開会挨拶：長生橋を愛する会理事長 渡辺千雅
- ・来賓挨拶：新潟県長岡地域振興局長 伊野智彦
国土交通省信濃川河川事務所長 福島雅紀
長岡副市長 高見真二

1. 第3回長生橋フォトコンテスト表彰式
2. 長生橋フォーラム 2023

「はしとまち長生橋の魅力と新たな長岡の未来」

★基調講演「愛され橋のつくりかた」

講師：フリーライター 橋本啓子



長生橋フォーラム 会場



長生橋フォーラム配布資料

★パネルディスカッション

「長生橋の魅力と新たな地域創造のために」

パネリスト：橋本啓子(基調講演講師)

中川 渉(新潟県長岡地域振興局地域整備部長)

高見真二(長岡市副市長)

井林 康(長岡工業高等専門学校教授)

鈴木聖二(長生橋を愛する会副理事長)

進行：瀬戸民枝(長生橋を愛する会理事)

・新潟県魚沼地域振興局地域整備部長)



長生橋フォーラム 2023



フォトコンテスト表彰式



基調講演



パネルディスカッション

長生橋フォーラムには会場定員に迫る 102 名の参加者があった。

基調講演では、内外各地の市民に愛されまちづくりに大きな役割を果たしている特徴的な橋について紹介があり、新潟市の萬代橋が市民に愛される橋になる過程が詳しく語られた。特にきっかけは、初代萬代橋架橋 100 周年にあたってのライトアップ発案に対して、「万代橋の百周年を考える会」の設立とのこと。

パネルディスカッションでは土木工学(構造力学)の視点からゲルバートラスについて、地域や市民の視点からは、戦前から存在する長生橋は、長岡のアイデンティティそのものとの魅力が語られ、誕生祭や長生橋を鑑賞できる仕組み、広大な河川空間を含めた信濃川一体となった新たな活用など長生橋をまちづくりに活かす方策について意見が交わされた。

4. 今後の展望

長生橋ライトアップは架橋 80 周年にあたり、新潟県長岡地域振興局、長岡市、国土交通省長岡国道事務所、長岡商工会議所などが実行委員会を組織して実現させた。夕闇に浮かぶライトアップされた長生橋は美しく信濃川に映え、多くの市民がライトアップの継続を望んだ。実行委員会ではライトアップを含めた事業の継続が難しいとのことから、市民団体「長生橋を愛する会」が組織されたものである。

■長生橋ライトアップの継続点灯

当初、試験点灯により黄色が選定されにライトアップされたところであるが、現在社会的メッセージをもたせた色彩としている。このライトアップを継続実施することが使命と考えている。

現在の機器では冬期間の積雪に耐えられず取外しているが、冬期間の点灯について検討していく。

■長生橋の魅力を市民と共有する活動展開

信濃川・長生橋は長岡市民にとって長岡花火に関連して語られることが多い。構造見学会や長生橋フォーラム、フォトコンテストなどの活動を行っていく中で、長生橋の魅力を再認識し今後の橋のあり方などを市民とともに議論していく。

■信濃川の河川空間・水辺・水面活用検討

東西を大きく分断する信濃川は市街地の東西交流にとって厄介な存在であるが、これが花火大会を可能にしている空間でもある。

かわまちづくり、ミズベリングなどの活動から長岡地域の個性を磨いていきたいと考えている。



信濃川河川敷と長生橋